

日本学生オリエンテーリング連盟会長  
河合 利幸



今年度は秋から台風、地震、津波と大きな災害が相次ぎました。一方、スポーツ界では、アテネ五輪でのメダルラッシュやイチロー選手の大リーグ記録など、日本人選手の活躍が明るい話題を提供してくれました。オリエンテーリングもこれらに続きたいところですが、日本の現状にはなかなか厳しいものがあります。しかし、ただ手をこまねいているわけにはいきません。WOCを間近に控え、学生、社会人ともに力を合わせて盛り立てていく必要があります。インカレは、今年度からミドルとロングディスタンス競技の開催時期が変更され、ロングはJOA公認東日本大会との併催となったわけですが、これもその一助になればと思います。幸い、この試みは成功裏に終わり、普段インカレには縁遠い社会人も、そして学生もお互いによき刺激を受けることができたのではないのでしょうか。

今回のミドルとリレー競技はその改革の第2弾となります。開催地は、日本有数の良質トレインを誇り、宿泊にも便利な観光地・日光。まさにインカレのためにあるかのようです。日光では過去数多くの名勝負を生んできました。今回はどのような結末が控えているのか、今から楽しみです。

選手の皆さんにあっては、勝利に向けての準備に余念がないことでしょう。大会当日は、大いにインカレを楽しんでもらいたいと思います。ただ気をつけてほしいことがひとつあります。それはけがです。最近のインカレでは、毎回のように救急車のお世話になるような事態が発生しています。しかも、始めたばかりの1年生に多いような気がします。先のロング競技でも複数回来てもらうことになってしまいました。どんなスポーツでもけがの危険性はつきもので、自己責任と言えるかもしれませんが、しかし、搬送などで地元で重大な迷惑がかかるようなことがあってはなりません。上級生やコーチ、チームオフィシャルの皆さんには、下級生に対して、けがの防止についても日頃から十分な注意喚起や指導をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、仕事や育児、勉学の忙しい合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、本当にご苦労様でした。そして地元関係者の皆様には、様々な面でご協力をいただき本当に有り難うございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長  
堺 信夫



学生最大の競技会にして最大の祭典、日本学生オリエンテーリング選手権大会（インカレ）を開催できますこと、きっとみなさんと同じ気持ちですね、僕もとてもうれしく思っております。

インカレの歴史を振り返ると、時代と活動環境の移り変わりによって、その開催はかたちを変えてきたことを知ります。団体戦がはじまり、競技2日間制が定着し、ショート競技の導入と秋インカレのスタート。わかりやすく大きなものを挙げましたが、じつのところインカレは毎回何らかの挑戦を行ない、そして変わり続けています。今年度もまた大きな改革が行なわれました。先の11月に開催した秋インカレにおいてはショート競技からロング競技へ、今回の春インカレはクラシック競技をミドル競技と変え、リレー競技とともにスタートします。これらの変更は一朝一夕に行なわれているものではなく、何年も前から議論され、計画され、準備そして推進されてきたものです。インカレの運営にも多くの人の協力と時間が注がれています。幾人かの加盟員とともにインカレロングの運営に携わってわかったことですが、大会開催までにはいくつもの入念な準備や話し合い、作業が行なわれていきます。今回のインカレミドル・リレーを運営してくださっているのは、学連のOBOG、僕たちの先輩たちです。インカレをたのしんできた先輩たちは、そのたのしかったインカレを僕たちに贈ってくださいます。だから、僕たちはインカレを精一杯たのしみましょう。競い合い、応援し、盛り上がり、そして熱くはげよう。僕たちのたのしさがインカレの成功となり、その経験をまた将来に引き継ぐこととなります。

最後になりました。オリエンテーリングとインカレへのご理解、開催へのご協力をいただいた栃木県今市市と日光市のみなさま、ご多忙の中にインカレを準備していただいた実行委員と関係者のみなさま、本当にありがとうございます。日本学連加盟員を代表して、厚く御礼申し上げます。



インカレが再び今市・日光に戻ってきました。歴史を紐解けば、インカレが初の2日間競技大会になったのも今市・日光で開催されたインカレからでした。そして、ミドル&リレーという新しい競技形式に生まれ変わる今回のインカレの開催地が今市・日光というのも、何かの縁かもしれません。

1年生のみなさんにとっては、初めての春のインカレです。私もそうでしたが、先輩たちの話には誘われて何となく来てみたという方もいるかもしれません。良く分からないこともあるかと思いますが、このインカレに参加することでいろいろなエネルギーを感じてもらえれば幸いです。

2年生のみなさんの中には、初めてエリートに参加するという人もいるかもしれません。あるいは、初めてインカレに参加するという方もいるかもしれません。このインカレを通して、新しい発見ができるようなインカレを用意してお待ちしております。

3年生のみなさんの中には、そろそろ慣れてきたよという人もいるかもしれません。ただ、私はどのインカレも一つとして同じインカレというものは存在しないと思います。今回のインカレに参加することで、自分が感じてきたインカレと違った印象が得られることを祈っています。

4年生のみなさんにとっては、いよいよ最後のインカレです。参加者としてインカレに別れを告げる用意はできていますか。

さて、冒頭でも触れましたが、この今市・日光の地でインカレが開催されるのは実に5年ぶりです。その間、様々な問題もありましたが、こうして再びインカレが開催されるのは、ひとえに地元の方々のご理解とご支援のおかげです。最後になりましたが、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



2004 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会が、今市市と日光市を会場に全国各地から皆様をお迎えし、盛大に開催されますことを心から歓迎いたしますとともに、お祝いを申し上げます。

会場地であるここ今市市は、世界一の並木道としてギネスブックに登載されている日光杉並木街道を有し、価値ある歴史・文化遺産として21世紀へ向けての保護をおし「杉並木のまちづくり」を進めております。また「そばのまち今市」を掲げ「そばまつり」の開催をいたしております。

近年、社会体育を取り巻く環境も変化し、余暇の増大や高齢化の進行、生涯学習時代を迎え、それに伴い人々の「生涯スポーツ」への関心と参加は、日ごとに高まりを見せています。

当市におきましても、市民が生涯に渡って年齢や適性に応じて、継続的にスポーツ・レクリエーション活動が行えるよう「一人1スポーツ」を目指し、スポーツの振興に力を入れているところであります。

このような中、全国のオリエンテーリング愛好者の方々をお迎えして生涯スポーツの一大大会であります本大会が開催されますことは、本市にとっても大変意義深いことであると同時に、生涯スポーツやレクリエーションの振興にとっても大いに寄与されるものと確信しております。

さて、オリエンテーリングの目的は自然の中のコースをむやみに走るだけではなく、限られた情報を最大限に活用し、最良のルートをいかに走破するかという知力も兼ね備えていなければなりません。体力が優れていなくても、知力を使ったルート選択次第では勝者になりえるチャンスがあり、このことが面白さ、醍醐味であるのだと思います。

参加者の皆様には、日頃から培ってきた成果を十分に発揮されることはもちろんのこと、結果だけでなくお互いの友好親善を一層深め、思い出に残る素晴らしい大会となりますことを願っております。

おわりに、本大会の開催に際しまして多大なご尽力をいただきました関係各位に深く敬意を表しますとともに、本大会の成功をご祈念申し上げ歓迎のことばとさせていただきます。

日光市長  
眞杉 瑞夫



2004年度日本学生オリエンテーリング選手権大会が、全国各地から選手、役員の皆様をお迎えし、日光市・今市市を会場として盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、心から歓迎を申し上げます。

日光市は、日光国立公園の中心に位置し、絢爛豪華な或いは繊細にして重厚な神社仏閣の人工美と四季折々の素晴らしい自然美との調和がとれた国際観光都市として、その名を内外に知られております。

オリエンテーリングは、欧州で生まれ、自然のままの山や丘、森や林、自然そのものを競技場として使いますが、日光の大自然は英国や欧州アルプス地方の山岳湖沼地帯と雰囲気がよく似ていたことから、明治時代には、多くの在日外交官や外国人実業家たちの別荘が、中禅寺湖畔に40以上もたたずみ、夏のシーズンには、相当な賑わいをみせたと言われており、国際的避暑地としても栄え、今でも多くのお客様を迎えています。

これらの悠久の歴史と日光の大自然を背景に、選手の皆様には、日頃の練習の成果を十分に発揮され、競技に臨んでいただきたいと存じます。

また、大会終了後には、人類共有のかけがえのない財産として世界遺産に登録されました日光東照宮をはじめとする「日光の社寺」の歴史的文化遺産や雄大な日光の大自然を満喫していただければ幸いに存じます。

最後に、選手の皆様のご健闘を祈念し、歓迎のあいさついたします。